

第3回「市長と語る」

9月20日、各分野の市民の皆さんと市長が、対馬市の抱える問題や将来に向けたまちづくりについて対談する今年度第3回目の「市長と語る」を実施しました。今回は、「楽しく元気に生きるためには、高齢者からの提言」をテーマに、活発な意見交換が行われました。内容(抜粋)は次のとおりです。



赤ちゃん対策が今一步と語る廣田さん

ような社会だと思われませんか。

「廣田」一つは、友人などお互いに身近なところでのふれあい、地域でのふれあいを大切にすること。もう一つは、趣味を通じて、例えばゲートボール等の高齢者らしい趣味を通じてお互いに親善交流を図るということも、高齢者がいきいきと暮らせる社会の一因になると思います。

「司会」高齢者を家族から、地域で支え合うという形に変わってきていますが、対馬市としては、高齢者福祉のどんなことに柱を置いて進めていく方針なのでしょう。

「市長」日本は今、世界の先進国がかつて経験したことのないものすごい



高齢化について答える松村市長

スピードで高齢化が進んでいます。よって支え合う組織、支援体制等のシステムづくりの遅れが生じた原因があると思います。

与えられる福祉から創りだす福祉へという言葉がありますが、これからは住民自らの福祉活動に、行政としてどういうサポートシステムをつくっていくのか、また、財政の合併効果が現れるような組織づくりのあり方を現在研究しています。これからの高齢化社会を元気で、体を動かしながら人の為に奉仕ができる。そこまで余裕がある

【出演者プロフィール】(敬称略:順不同)

廣田幸雄(81歳・厳原町榎根)

対馬市社会福祉協議会長、若田^{すずり}碓づくりの職人

横尾悦代(73歳・美津島町雑知)

民生・児童委員(美津島地区民協会長)元看護師

比田勝利章(75歳・上対馬町大増)

対馬市老連上対馬支部長、元特別養護老人ホームひとつばたご施設長

松村良幸(63歳・対馬市長)

司会=阿比留えり子(MYTアナウンサー)

「司会」 それでは率直に今、対馬が高齢者にとってどんな島と感じているのか。高齢者にとって快適な島になっているのか。という点でお話をいただきたいと思っています。

「廣田」 私たちの高齢者に向けた施設というのはかなりのレベルまで達しているものだと思います。ただ一言、言わせていただくなれば、赤ちゃんの対策が今一歩かなと思います。高齢者にとって素晴らしい長寿社会というのは、孫やひ孫の泣き声や笑顔を見ることが、最高のプレゼントだと思っています。

「横尾」 長生きして取り残された時、身体が不自由になった時が心配です。

お店まで歩いて行くのに遠くていけない、都合のいい時間帯にバスがないなど交通の利便性を考えると、買い物とか通院などの日常生活がとても心配です。一人暮らしの高齢者にとって、私は現状が充実しているとは思いません。

「比田勝」 私は一人暮らしですが、今はデイサービス等ができていて非常に老人は大事に思っています。大抵、各家庭が周囲が車を持っていきますので、乗り合いでスーパーとか温泉等に出かけたりしていますので、対馬は暮らしやすいと思っております。

「司会」 高齢になっていきいきと過ごせる理想の社会というのは、どの



司会の阿比留えり子さん

ようないきいきした輝く高齢者社会の実現、創出のために、いろんな試み、努力をしなければならぬと思っております。

「司会」 社協としては、福祉振興としてどのような活動を行っていくという柱があるのでしょうか。

「廣田」 対馬市と同日に、6町の社会福祉協議会が合併してスタートした訳ですが、行政みたいに一つの基準でなく、それぞれに異なる業務内容がありました。旧町から続いている事業は、それぞれの支所に独自の活動をさせるということ、市民の皆さんに福祉の手助けをしているのが現状です。運営については、行政との綿密な連絡をとり、今のところ順調な歩みを続けていると思います。

「司会」 横尾さん、民生委員の活動の中で感じた点がありますか。

「横尾」 島内に子どもがいても寄りつかないというような、家族の崩壊を感じることがあります。また、自宅で酸素吸入をしながら一人で生活されているお年寄りもいました。不安を直接



「もっと親孝行を」と話す比田勝さん

話される方は少ないのですが、訪問するたびに同じ愚痴を何度も言われることもあります。話を聞いて共に悲しみ喜び、共感するという援助の仕方もあるのではなからうかと最近感じております。

「司会」 比田勝さんは、特養ひとつばたこの元施設長として、若い方々、体の不自由な方々を目の当たりにした中、福祉のあり方についてはどのような気持ちを持っていますか。

「比田勝」 施設の入所者には、子供さんがいる人もいます。なかなか親孝行をしない人達もいますので、かわいそうだなという気持ちもあります。施設に親を預けた安心から、年1回しか面会に来ない場合もあります。もっと頻繁に来て、親孝行をしてもらいたいと思います。

「司会」 この10年ぐらいで施設のほうも非常に増えましたよね。デイサービスセンターであるとか、グループホームであるとか。

「市長」 対馬ほど福祉施設が充実しているところは県下でも珍しいと思

ます。しかし、施設があるだけではいけませんから、やさしさ、希望、生き甲斐づくり等をどうしていくのかが今後の課題です。対馬市同様に、社協も合併をしました。合併効果を出すためには、集中管理によって小さな役所を実現しなければ、これからはやっていけないわけです。合併していいことないじゃないかという声をよく聞きますが、時代が変わっている訳ですから、私たちの考え方を時代にあつた考え方に変えていかなければ、対馬の明日は無いと思います。新しい対馬のため、子や孫のために、智慧を出し合い価値ある遺産づくり、いい社会の構築等、私たちが行っていく義務がありますよね。

「司会」 考え方を変えなければという話が出ましたが、高齢者自身の意識改革、自立についての考え方というのを、どのようにお持ちでしょうか。

「比田勝」 老人クラブの活動に、健康、友情、奉仕という3大目標があります。健康で、仲良く、地域に奉仕するという精神を間違えないようにということ、今活動しています。

「横尾」 老人だからもう役に立たないとか、もう長くは生きられないというような意識を持っていますと、自然と引きこもりがちになります。高齢者には、自分自身の生き甲斐を探して、最後にはいい人生だったと思うような生き方を今からでも探してもらいたい



「生き甲斐を探して、いい人生を」と話す横尾さん

と思います。

例えば、高齢者のボランティア活動を積極的にPRすることで、自分にもまだまだできることがあると、気づかせることができます。これにより、生き甲斐を感じることもや自立性を確立できると思います。

「廣田」 私がいつも使います言葉に「老いては子に従え」という言葉があります。ある程度の高齢になると、おのずから自分の意識の改革をしなければという警鐘を鳴らす言葉だと思います。

また、自分のエゴだけを出すと、誰からも嫌われ、近づく人がいなくなり、頑固な人は嫌われるということ。また、めそめすれば相手は離れるということ。腹を立てるより許しなさいということや、愚痴ばかり言うより喜ぶ方に転換しなさいということに心がけねばならないと思っています。

「司会」 比田勝さん自身も大変お元気ですが、楽しく生きる秘訣というものは何かお持ちでしょうか。

「比田勝」 くよくよしないという気



高校生による福祉ボランティアの様子

持ちです。

「司会」 高齢になっても何か人のためになれることについて、どのように考えておられますか。

「比田勝」 ボランティア活動をする事です。今、老人クラブが1番生き甲斐を持って取り組んでいるのは、ゲートボールとグランドゴルフです。こういう活動しているクラブが1番健全です。奉仕も行いますしね。目的をなくしたクラブは自動的に解散になったりしますので、元気の会員の人たちは、活動をしっかりとやってもらいたいと思います。

「司会」 横尾さんはいかがででしょうか、ご自身のいきいきと生きる秘訣は。「横尾」 民生委員として子育て支援の活動などをしておりますが、これが生き甲斐といえば、それかもわかりま

せん。楽しく生きる秘訣としては、まず健康であること、そして若返りは無理ですけど、まだまだ老化は遅らせたいと思っています。

また、ほんの少しだけでもいいので警沢をして、気持ちにゆとりを持って、自分なりに楽しみを見つけて、老いゆく人生を自然体で暮らしていけたらいいなと思っています。

「司会」 趣味もいろいろお持ちのようですが。

「横尾」 一番の趣味は旅行ですが、公民館講座で編み物、陶芸、洋裁、パッチワーク、健康体操などもやっております。

「司会」 廣田さんはやはり生き甲斐というのと、硯すずりになるかと思えますけれども。

「廣田」 硯すずりですが、福祉に携わってお互いに助けたり助けられたりという中で、皆さんのお役に立てたという喜びがございます。皆さんの満足そうにまた、安心されたような喜ぶお顔を拝見する時ほど、嬉しいものはありませんし、生き甲斐を感じます。

現役を退いても、私は陰の力となり、生涯続けたいという思いを持っています。福祉ボランティアというのは誰のためにするものでもないし、自分のためにするものだと思っております。

「司会」 現在、対馬の高齢化率（65歳以上の高齢者の総人口に対する割合）

というのが26%。10年後には28%になる予想ですが、高齢化社会を支える若い人たちに期待すること、また対馬市に期待することは。

「比田勝」 現在、福祉分野において対馬は非常に充実しています。これ以上施設が増えれば、若い人たちに甘えが生じることもあるでしょう。ある程度までは、親の面倒は子供が見るといことは必要だと思えます。どうしても見られないときは施設に預けるといっけじめを、若い人にしっかり持つてもらいたいなと思えます。

「横尾」 やはり高齢者を理解していただきたいと思えます。そして、子供たちと一緒にできるような交流の仕方イベント等を、若い人が先頭に立ってしてくれたらいいなと思えます。

また、この前地震があったように、災害があった時どうしたらいいかというのを民生委員も一緒にあって、災害対策等をおこななければいけないなと思っております。

「司会」 市長もおいでですが、対馬



老人フェスティバルにて

市に何か期待したいことは、

「横尾」 高齢者向けの健康体操、認知症や寝たきり予防の運動等を、市職員の方にも勉強してもらって、やっていただきたいと思えます。これによって老人医療が減少したと、テレビで放送されていました。私たちは一人では長続きしないので、市から呼びかけてほしいと思えます。

「廣田」 若い人をお願いしたいことは、人口を増やしてもらいたいということです。また、施設を新たに造るのは国によって制限されていますので、市長さんの福祉に対する意気込みで増設でもいいので、現状を打破してもらいたいと思っております。

「司会」 これだけは言いたいということはありませんか。

「比田勝」 観光地に缶、ビンが捨ててあることです。若者が捨てていると思えますが、それをおじいちゃん、おばあちゃんが拾っています。老人会の会合でも話になるのですが、若者がもう少し紳士になってもらいたいなという気持ちを持っています。

「横尾」 現在、対馬市においても失業者が多く、高齢者だけでなく若い人も生活の援助が必要な家庭が増えています。これは大変なことですので、失業に続く雇用問題がなんとかならないかなと思っております。

「廣田」 社協が合併して、非常に活



中学生による福祉体験

動工エリアが広くなりました。そこで、私共の活動する上で困るのが、国道の速度制限です。活動エリアが広くなりますと、掛け持ちで各地を移動中に40km、50km規制のところではけんこつのある玉をもちう時があります。40km区間というのは何とかならないのかなと痛切に思っています。

「司会」 みなさんの意見を伺いましたけれど、一言お願いします。

「市長」 高齢者のみなさんがすこやかに老いるということに尽きるのです。ところが、みなさんの忌憚(きたん)のない話を聞きまして、大変なことだなあと感じます。

我々は自分達が生きていくのではない。世の中に生かされているのだというところが、皆さんの共通の思いだろつと思えます。ある程度人生を生きてきて振り返ったときに、社会のために、



世の中のために、何か役に立つことをしたいなというお話も、お三方共通のようです。

私どもが、特に行政で気を付けたいといけないことは、いろいろ「要望」がありましてけれども、青少年であれ高齢者であれ、希望の持てる地域、あるいは社会づくりが重要だということです。

作家の村上龍氏が「この国には何もあるが希望だけがない」と言いました。今後は私も市長やら、市議会議員、市職員だけで地域づくり、社会づくり、街づくりはできません。みんなやらなければ実現しないのが、街づくりだと思っております。是非そのようなシステムをつくっていききたいと思っています。

高齢者がいかにすこやかに老いていくかという目標に向かって、みなさんのお話しを聞きながら、全身全霊を打ち込み、より良い地域社会づくりを行っていききたいと今また、覚悟を新たに

しています。本日はありがとうございました。

「司会」 それでは最後に、これからの私の生き方ということを、一言お願いします。

「廣田」 健康に留意し、できることなら生涯、陰の力になりたいということとです。

「横尾」 13年間民生委員として地域の方々に多少なりとも、誠意を尽くせたことが生き甲斐であります。多くの人達と出会うことができ、逆に今の自分がつくられたような気もしております。これからは、自分の老後も真剣に考えながら、今自分にできることを、精一杯がんばっていければ幸せだと思っています。

「比田勝」 旅行や、色々な会に参加しながら、楽しく余生を暮らしたいと思っております。老け込まないようにしたいと思っております。

「司会」 今日はみなさん、ありがとうございました。

なお、この対談を収録したビデオを各支所、公民館、出張所に準備しています。視聴希望の方は、各支所総務課にお問い合わせてください。

また、対馬市では、この対談を今年度6回計画しています。市長と対談希望の方は、秘書課(53 6111)までお問い合わせください。

市長の動き

10月

1日＝赤い羽根空の1便行事、エア・ニッポンネットワーク初便運航行事

2日＝陸自対馬駐屯地25周年記念行事

3日＝対馬市議会定例会(最終日)

5日＝対馬市総合計画等審議会

7～9日＝全国・離島交流ゲートボール親善大会

11～14日＝日韓海峡圏研究機関協議会での講演(佐世保)、対馬福岡

間航空路陳情(東京)

15日＝しま自慢観光カレッジ「開校式

18～20日＝九州市長会(熊本)、長崎

県戦没者追悼式(大村)

21日＝市政推進懇話会、叙勲伝達

22日＝シンポジウム「対馬の医療 今

日と明日」

23日＝対馬市民球団実行

委員会設立総会

24～25日＝県離振正副会

長会議、同理事会

26日＝小浦ダム完成式

28日＝対馬市戦没者追悼式

30日＝厳原町漁協「荷捌き施設」落成式

